

礎

いしずえ

笑顔と会話が溢れる学校

学校の教育目標

深く考え みがきあい たくましく

旅立ちに寄せて 一卒業おめでとうそしてありがとうー

ここまで15年間 よくやってきた

これからの(自分の)人生に 胸を張って歩み出そう

いつも前向き 何かかもポジティブでいよう

思い通りばかりにはならない自分の人生を

面白く楽しく生きられるかどうかは自分次第

世の中には 理不尽に感じることも不満もたくさん

そこをどううまく乗り切ることがだいじ

うまく乗り切れば自分が深く豊かで幸せになれる

周りを気にせず いつでもどこでも おおいに夢を語り まっすぐに夢を追いかけ

夢の実現に手が届くところまでの経験をたくさん積み重ねる

そうして人生の一時一時を楽しんで歩もう

卒業おめでとう 君たちとの出会いは奇跡

この一年とても楽しかった ありがとう お元気で

令和六年三月八日

坂祝中学校校長 渡邊 等



卒業式 式辞

(略)さて、私は、この2年間、幾度となく皆さんのエネルギーと温かさに圧倒され、非常に心地よく、その時を過ごすことができました。

授業を観に教室を訪れると、元気な挨拶と共に、常に仲良く活発に交流する姿がありました。互いを信頼し、考えが異なる仲間同士が認め合える穏やかな空間でした。登下校時にこやかな姿、作業をしているときにかけてくれる「ありがとうございます」「お疲れ様です」の一言は、皆さんの素直さや優しさの表現として強く印象に残っています。

体育大会。団員全員による円陣は、迫力がありました。大人数でのパフォーマンスは、集団に結束がないと実現しません。それができるリーダーがいて、それを取り巻く仲間がやる気に満ち、強くまとまっていたということです。実際、競技に懸命に取り組む姿、競技中の他学年への応援があり、「体育大会を自分たちの力で創り上げ、自分たちの力で楽しもう」とする意気込みが伝わってきました。その中心には、常に3年生の姿がありました。

文化発表会の合唱は圧巻でした。コロナ禍の苦勞、我慢してきた3年間とも重なり、こみ上げるものがありました。指導に来てくださった谷村先生の閉会式での言葉「坂祝中はすごい。」は、君たち3年生の堂々と歌う姿と、その純朴なうしろ姿に向けられたものです。

合唱を始め、これらの温かく、結束した姿は、自治への扉を開き、たくましさを生み出すという点で、今後の坂祝中の更なる飛躍への礎となりました。

修学旅行は、3泊4日になりましたね。最終日は、着替えも替えのコンタクトもない、何人かは土曜日には大会があるという大ピンチに見舞われましたが、皆、落ち着いて、そして、非常時にも関わらず、仲良く自然体で過ごし無事帰着できたこと、皆さんやお家の方々にも感謝です。私にとっても、一生の良き思い出の一つです。

この三年間、学習や仲間関係で、楽しかったことと共に、迷ったこと、腹が立ったこと、すれ違いに悩んだこともあったでしょう。その分、気持ちが通じ合った時のよるこびは大きなものだったろうと想像します。それらの一喜一憂、喜怒哀楽すべてが、坂祝中学校での貴重な思い出や経験であり、皆さんの成長の証です。

4月からは、新しい場所での生活です。この先、自分が試され、判断を迫られる時が必ず来ます。その時には、まだまだ、遠慮なくたくさんの人たちに頼りながら、最後は、自らの意志で挑み、胸を張って堂々と未来を切り拓いていってください。(略)